

授業評価アンケート 調査結果報告

昨秋に実施した第5回「授業改善のためのアンケート」調査結果の概要を、今月は後期完結科目について報告します。データ分析は、調査を実施した(株)日経リサーチによるものです。

読者の声

調査概要 (後期完結科目)

【調査実施時期】2001年11月8日～21日

【調査対象】獨協大学の全学生

【調査方法】授業出席者に対して配布、授業時に回収

【調査内容】教員評価、授業満足度、講義・演習・外国語・体育実技等の評価

【調査回収サンプル数】 合計 7695サンプル※

学部別	サンプル数	学年別	サンプル数
外国語学部	5656	1年	2128
ドイツ語学科	380	2年	3147
英語学科	2677	3年	1702
フランス語学科	358	4年	486
言語文化学科	2241		
経済学部	1317		
経済学科	588		
経営学科	729		
法学部	492		
法律学科	364		
国際関係法学科	128		

※学科、学年が未記入のものを含む。

【教員所属学科別回収率】

教員所属学科	受講者数	回答者数	回収率
外国語学部 合計	9751	6233	63.9%
ドイツ語学科	174	67	38.5%
英語学科	4755	2871	60.4%
フランス語学科	136	92	67.6%
言語文化学科	2677	1709	63.8%
共通科目	2009	1494	74.4%
経済学部 合計	1871	1228	65.6%
経済学科	611	404	66.1%
経営学科	1260	824	65.4%
法学部 合計	581	234	40.3%
法律学科	44	21	47.7%
国際関係法学科	537	213	39.7%

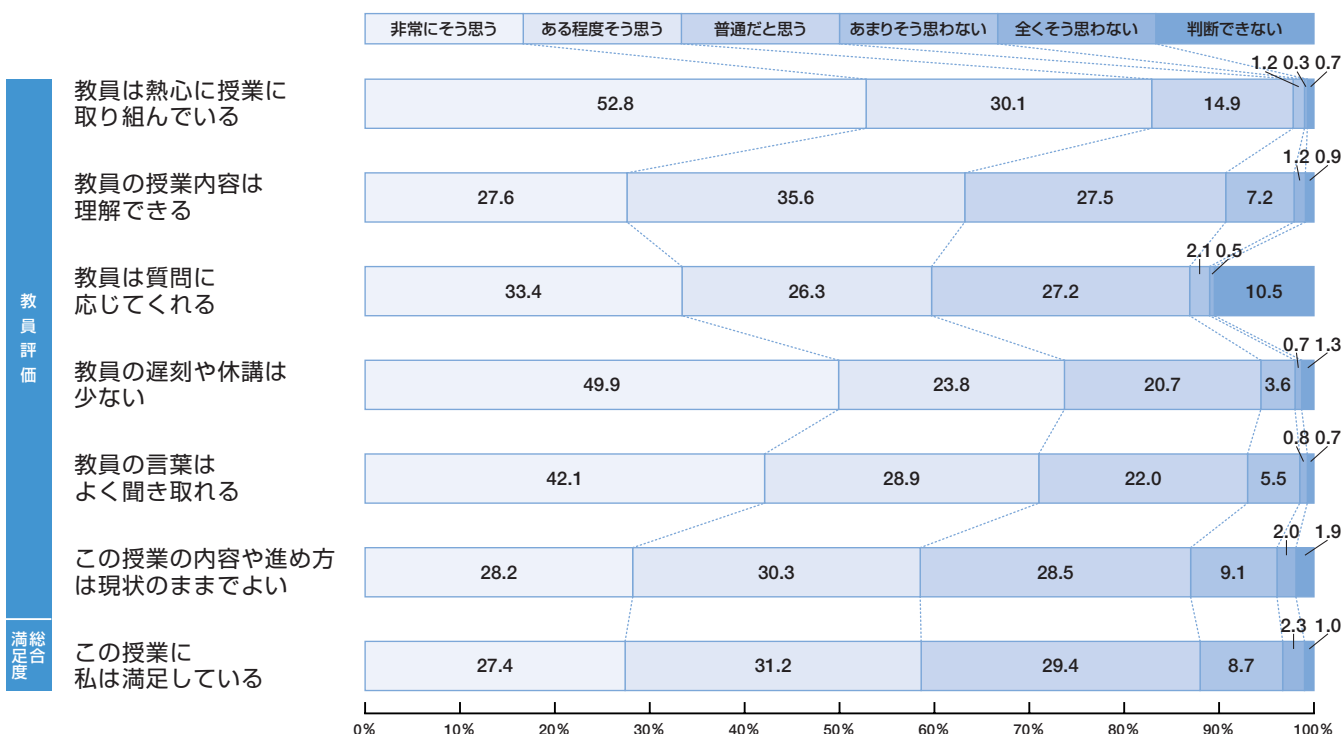
共通項目全体について

○教員評価の項目を「非常にそう思う」の割合で見ると、最も評価が高いものは「教員は熱心に授業に取り組んでいる」で、52.8%となっている。

「非常にそう思う」と「ある程度そう思う」の合計では、「教員は熱心に授業に取り組んでいる」が82.9%と8割以上の評価を得ているほか、「教員の遅刻や休講は少ない」(73.7%)、「教員の言葉はよく聞き取れる」(71.0%)などの評価が特に高くなっている。

全般に評価は高めであるが、「そう思わない」の合計スコアがやや高いものは「この授業の内容や進め方は現状のままでよい」の11.1%で、否定的評価が1割を超える。

○総合満足度は「そう思う」の合計で58.6%と、6割近くが授業に満足している。



3年前前の入学式のとき、大学へ行って気になったことがひとつありました。それは、大学の前を流れるあの伝右川です。何とかしたいと考え、いろいろな方面に声をかけて、キレイにする運動をすすめたいと思ったのですが、1年に1、2回しか訪れることのない親の私にとつて、なす術がありませんでした。福岡の柳川がどぶ川から清流になったように、この川がいつかキレイになることを期待しています。

武井由紀子(仏4年女子の母)

私は「あしなが学生募金」事務局のメンバーで、「あしながPウオーク10」実行委員会副委員長を務めています。メンバーの主体は過去に遺児体験をもつ高校生や大学生です。多く一般のボランティアにも支えられています。活動は交通遺児支援から始まり、災害・病氣・阪神大震災、自死と支援の輪を広げてきました。そして1999年はコンピュータやトルコ、台湾、2001年はインドやエルサルバドルで起こった大震災遺児支援も行い、活動は海を越え、さらに大きく広がっています。今年はニューヨークや

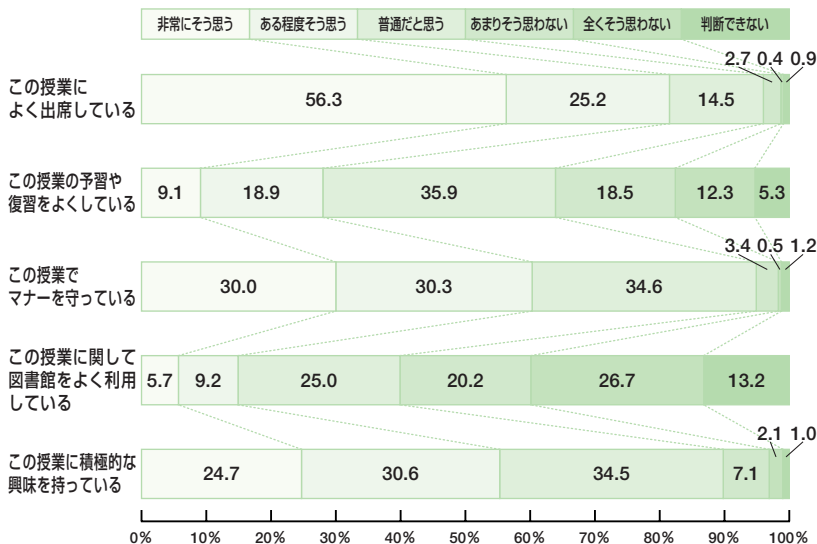
自己評価項目について

○「この授業によく出席している」についての自己評価は、「非常にそう思う」が56.3%と5割を超える。「そう思う」の合計では81.5%となっており、アンケート回答者の授業の出席率の高さがうかがえる。

○次に評価の高いものは「この授業でマナーを守っている」で「非常にそう思う」が30.0%、「そう思う」の合計では60.3%と、授業態度の評価も比較的高い。

○一方、「この授業の予習や復習をよくしている」と「この授業に関して図書館をよく利用している」の評価は低く、「そう思う」の合計が「予習や復習」では28.0%、「図書館の利用」が14.9%となっており、授業時間以外の勉強に臨む姿勢には弱さが見られる。

○「この授業に積極的な興味を持っている」においては「そう思う」の合計は55.3%と5割を超えるものの、「普通だと思う」のスコアが4割近くに上ることから、授業に対する関心が強いとはいえず、勉強に臨む姿勢の弱さにつながっていることがうかがえる。



データ分析

全体データ

● 共通項目全体について

通年科目同様、教員の授業に対する熱心な取り組み、遅刻・休講の少なさに対して高い評価となっている。授業の理解、授業の内容・進め方の現状に対しては評価が低い。満足度向上のためにもこの点の改善が望まれる。

● 個別の授業科目について

講義科目はいずれの項目でも「ふつうだと思う」の回答が最も多くなっており、全体的に評価は低くなっている。教科書および参考書の役立ち度や、シラバスに即しているかどうかの評価は約2割が「判断できない」としており、授業目的が明確に伝達されていない可能性がある。

演習科目は専門分野の知識習得や、授業時の討議・発表の取り入れに対して評価が高くなっている。一方で、個々の学生に応じた指導については評価が低くなっている。

外国語科目は、肯定的評価はいずれの項目も5割前後にとどまっており、全体的に低い評価となっている。授業進度については1割前後が否定的評価をしており、このうち過半数が早いと評価している。

体育実技はどの項目においても評価が高く、特に授業の楽しさについては約9割が肯定的評価をしており、外国語学部よりも経済・法学部、また学年が上がるにつれその評価は高い傾向にある。

● 自己評価項目について

授業の出席や授業態度については高い評価をしているものの、図書館の利用、授業の予習復習の評価は低く、自己学習に対しては消極的な態度がうかがえる。

属性別データ

● 学年別

通年科目同様、学年が上がるにつれ評価が高い傾向にある。在籍年数が長くなることで大学の授業に慣れ、評価基準が若干甘くなっていることも考えられる。

● 学部別

全体を通じて外国語学部の評価が高い（経済学部・法学部は科目によって回答者数が少ないので、その場合は参考値とされたい）。教員評価では授業への熱意が各学部で高く評価されている。

授業満足度の時系列比較

右の表は通年科目、後期完結科目の授業満足度（4ページ最後の質問における「非常にそう思う」「ある程度そう思う」の計）を合算し、過去のスコアと時系列比較したものである。

全体の授業満足度は、2000年との比較では0.7ポイントのアップとほぼ横ばい。各学部で見ると2000年からほぼ横ばいのスコアとなっている。学年別では1年生の伸びが最も低く、3年生の伸びが最も高くなっている。4年生は7割近い満足度。98年からの伸び率を見ると、3年生の満足度は上昇傾向にある。

昨年の1年生、つまり今年の2年生の授業評価は、昨年51.3%から56.5%と、5.2ポイントの上昇。同じく2年（55.6%）→3年（63.6%）が8ポイント増、さらに3年（60.2%）→4年（69.4%）が9.2ポイント増と、現3・4年生は大幅に満足度が高まっている。

授業満足度の推移 (単位: %)

	98年	99年	00年	01年	01-00
全体	50.8	53.7	56.0	56.7	0.7
外国語学部	52.1	54.7	59.6	59.9	0.3
ドイツ語学科	49.8	51.3	58.9	59.7	0.8
英語学科	52.8	56.7	58.8	60.8	2.0
フランス語学科	52.8	55.5	63.1	60.3	-2.8
言語文化学科	—	49.9	60.5	56.4	-4.1
経済学部	47.8	53.6	53.7	55.0	1.3
経済学科	50.3	55.0	52.2	53.4	1.2
経営学科	45.2	52.5	55.2	56.5	1.3
法学部	51.0	51.8	53.6	53.4	-0.2
法律学科	—	52.4	54.0	54.0	0.0
国際関係法学科	—	45.2	51.5	51.4	-0.1
1年	45.0	46.7	51.3	48.9	-2.4
2年	46.9	51.9	55.6	56.5	0.9
3年	56.0	57.6	60.2	63.6	3.4
4年	64.8	70.6	67.5	69.4	1.9